

令和4年度 学校だより



令和4年11月30日(水)

御前崎市立第一小学校

学校教育目標

花いっぱい 自分 友だち 御一小

E-mail: 12月号

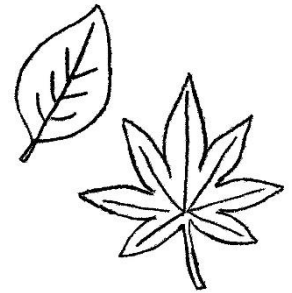
onichi@ed.city.omaezaki.shizuoka

花いっぱい 自分 友だち 御一小

紅葉のメカニズム

雨上がりの朝、低学年の子どもたちが赤や黄色の大きな葉っぱを手に登校してきました。登校途中に落ちていたのをきれいと思い拾ってきたとのこと。子供らしい瑞々しい感性が素敵だなと感じました。

葉っぱが緑に見えるのは、葉にクロロフィルという光合成に必須の成分があるからです。落葉樹の場合、秋になり日照時間が短くなると光合成の効率が低下しクロロフィルは分解されます。その際、分解されなかったカロテノイドという成分が葉を黄色に見せます。また、クロロフィルが分解される際、アントシアニンという色素が形成される葉もあります。このアントシアニンが葉を赤く見せるのです。その年の気候やその場所の栄養状態にもよりますが、葉に必要な成分が季節が変わり、かえって有害になるため、葉を落とし冬を越すための用意をする、その過程で紅葉が見られるのです。



かつて勤めた学校の1年担任の若い先生が4月の始め、教室の入り口に足形のマークをつけました。朝来たら、その場であいさつしようという約束のしるしです。しかし12月になろうとした頃、その足形のマークについて学校を訪問してきたベテランの先生から批判されてしまいました。つまり、子どもたちに習慣づけたらもう不要で取り外すべきであるとの指摘です。

指導する教師や保護者が、指導したつもりになっても、指導される子どもたちがそのことを、自分ごととして受け止めなければ指導は成立しません。また、子どもたちは、日に日に成長していきます。子どもたちが主体的に学ぶ現在の学校では、その成長に合わせ時期を逃さず柔軟に指導をすることが必要であると感じます。やりっぱなしは、子どもたちの成長を十分に認め切れていないのです。

朝、校門のところ立っていると子どもたちがいろんな話をしてくれます。その日に楽しみなこととか、家でこんなことがあったとか、1学期に比べ随分成長したなあと感じています。また、毎日の堅実な積み重ねこそ、一番の確実な歩みであるとも感じます。12月を迎え、次年度へ向けた準備も始まりました。すべての子が、冬にたくさんの栄養を蓄え、希望の春を迎えてほしいと思っています。

「花の咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。」

